日本短角種産肉能力（間接法）検定成績

（畜試　肉牛部）

１．背景とねらい

産肉能力直接検定成績が優れた種雄牛について間接検定を実施した。その検定成績が得られたので、種雄牛計画交配のための参考に供する。

２．技術の内容

平成２年度日本短角種間接検定成績

検定牛		幸花 n＝8	波宝 n＝8	梅光 n＝8	崎藤 n＝8	幸波 n＝8
生年月日		62/ 3/13	62/ 3/21	62/ 2/27	62/ 3/22	62/ 2/20
登録番号		本　956	本　957	本　955	本　954	本　958
血統	父	大幸 (本　582)	波花 (本　415)	笹豊 (短高第7)	崎宝 (本　617)	崎宝 (本　617)
	母の父	富川 (予岩419)	佐々光 (本　36)	春梅 (本　63)	森山 (本　484)	波花 (本　415)
直接検定ＤＧ		1.41	1.57	1.30	1.73	1.51
体重	開始時	233.4±14.6	233.9±16.7	259.8±27.5	249.2±21.6	252.8±23.5
	終了時	554.7±39.6	557.6±31.9	605.1±51.2	558.5±28.6	563.8±42.3
１日当り増体量		1.04±0.09	1.05±0.11	1.12±0.09	1.00±0.07	1.01±0.08
１kg増体ＴＤＮ		5.96	6.11	6.36	6.55	6.12
枝肉歩留		60.4±1.4	61.1±1.0	61.0±1.3	61.5±1.1	60.4±1.0
ロース芯断面積		37.8±3.1	47.5±5.4	44.2±3.5	40.9±2.6	38.9±3.2
背部皮下脂肪厚		1.7±0.2	2.0±0.6	2.1±0.4	1.9±0.5	1.9±0.2
脂肪交雑（BMS）		0.67±0.31	0.71±0.12	0.71±0.33	0.58±0.24	0.79±0.17
枝肉格付		A4-1 A3-5 A2-2	A3-3 A2-5	A3-3 A2-5	A3-4 A2-4	A3-4 A2-3 B2-1

1) 増体成績

検定を終了した種雄牛毎の息牛の平均ＤＧを見ると、崎藤の1.00kgから梅光の1.12kgまでの間であった。同様に１kg増体に要したＴＤＮ量の平均値は、幸花の5.96kgから崎藤の6.55kgまでの間であり、優れた増体能力を示した。

2) 枝肉成績

ロース芯面積の平均値については検定牛間でばらつきが大きく、幸花の37.8cm^2 から波宝の47.5cm^2 までおよそ10cm^2 の差がでた。また、歩留等級は１頭を除いてＡ格付けであった。平均歩留基準値が73％以上であったのは、波宝、梅光及び崎藤の３種雄牛であった。

なお、Ｂ等級を１頭出した種雄牛は幸波であった。

3) 肉質成績

ＢＭＳについては、0.58から0.79であり、しまり・きめについては等級が２から４であった。しまり・きめに関しては、息牛のうち１頭が４等級であった幸花が良好な成績であった。

息牛全頭の中で、肉質等級は４等級が１頭（ 2.5％）、３等級が19頭（47.5％）そして２等級が20頭（50.0％）であった。

4) 検定成績から、波宝を人工授精用種雄牛として選抜した。

３．指導上の留意事項

1) 間接検定法

(1) 検定期間

幸花	波宝	梅光	崎藤	幸波
H2/10/25 ～H3/08/29	H2/11/15 ～H3/09/19	同　左	H2/11/22 ～H3/09/26	同　左

(2) 給与飼料

濃厚飼料；産肉能力間接検定用飼料（ＴＤＮ73.0％，ＤＣＰ10.0％）
体重比 1.8％を全期間給与

粗 飼 料；乾草（ＴＤＮ43.7％,ＤＣＰ6.1％）及びデントコーンサイレージ（ＴＤＮ20.6％，ＤＣＰ1.2％）
肥育前期の前半及び肥育後期に乾草を不断給与
肥育前期の後半にサイレージを不断給与

2) 交配種雄牛の選定

近親交配を避け、産子の祖父の代に共通祖先を持つことになるような交配は避けること。（近交係数を12％以下にすること）

４．関連試験課題名

日本短角種産肉能力検定（間接法）